

COCO NEWS

～社会福祉法人等の地域における公益的な取組情報～



地域生活課題の解決に向けたソーシャルワーク研修（フォローアップ研修） ～社会福祉法人等の地域における公益的取組に関する情報交換会～を 開催しました！

本会では毎年、社会福祉法人職員を対象に「地域生活課題の解決に向けたソーシャルワーク研修」を実施し、その修了者に向けてフォローアップ研修を行っています。今年度のフォローアップ研修は形を新たに、「情報交換会」を兼ねて開催しました。参加者同士が現場での取組や課題を共有し、地域課題や自身の強みを振り返りながら、学びを深めました。



当日のプログラム

1 講話

「地域生活課題解決のための公益的取組の実践に向けて」
講師：東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科 教授 竹之内章代 氏

2 事例発表

「ゆるっく～地域でつながろうの会～（国見地域多職種連携ネットワーク）」
発表者：仙台市社会福祉協議会青葉区事務所 CSW（コミュニティソーシャルワーカー）

3 グループワーク

「地域生活課題の解決を目指して～私たちの強みを活かしてできることを考える～」



グループワークで話し合われた内容を一部ご紹介します！

地域の課題・気になっていること

つながりが
少ない

高齢化
独居高齢者

坂が多くて
移動が大変

活動の
担い手がない

相談相手
がない

世代間の
交流がない

自分たちの強み・活かせる資源

専門職が
いる

地域交流室が
ある

送迎車
がある

趣味・特技が豊富な
高齢者がいる

ゲートボール場
がある

庭や畑
敷地の活用

地域の課題に対して自分たちの強みを活かしてできること

出張
サロン

施設をまわって
トリックオアトリート

ゲートボール
大会

花見

カフェ

こども
食堂

子どもが教える
スマホ教室

送迎車で
買い物支援

一緒に
野菜作り

仮想空間での
相談窓口

子育ての
困りごと相談

外国人の
料理教室

商店街との
コラボ

自由なアイデアで
考えてもらいました♪

今回の情報交換会を通じて、参加者は新たな気づきを得るとともに、地域に根ざした取組の可能性を再確認しました。参加者からは「自分の施設や地域の強みを再確認することができた」「まだまだ取り組めることがたくさんあることに気づいた」「様々な機関が集まって話し合うことで新たなアイデアを生み出すことができるといった」等の声が聞かれました。

今後も地域内のさまざまな分野との連携を深めながら地域課題の解決に向けて取り組んでいくことが期待されます。

次ページからは、社会福祉法人の取組を紹介します。

事例紹介

社会福祉法人 緑仙会

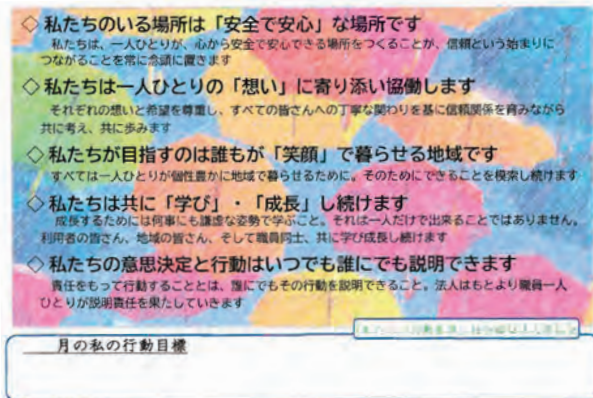
1日の始まりは笑いから
息を吸って吸って〜、フッハッハ〜!!



社会福祉法人緑仙会では、仙台市で障害のある方々の自立と地域生活を支援しています。就労支援や生活訓練、相談支援など幅広い事業を展開し、利用者一人ひとりの状況に合わせた支援を行いながら、利用者が安心して暮らし、働き、学べる環境づくりを進めています。写真は、パルいずみでの朝のミーティングの様子です。笑顔いっぱい1日がスタートします。

地域共生社会の実現を目指し、すべての人が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します。

社会福祉法人緑仙会は「利用者一人ひとりの尊厳と権利を守りながら、その主体性及び自己決定を尊重した支援を行い、すべての人々が安心して暮らせる地域社会の実現を目指します」という経営理念のもと、障害者総合支援法に基づく就労移行支援、就労継続支援、自立訓練（生活訓練）、短期入所、相談支援事業を仙台市から指定管理および業務委託を受けて管理運営しています。



法人の行動基準を記載したカードには、職員一人ひとりが、その基準に沿った目標を毎月設定し、職員同士で振り返りを行いながら業務に取り組んでいます。



レクリエーション活動でクリスマスコンサートを開催。普段はなかなか味わえない生演奏を、間近で楽しむことができました。

「地域における公益的な取組」については、精神保健福祉援助実習や精神看護学実習等の受け入れを実施し、地域の福祉人材を育成するとともに支援力の向上を目指してきましたが、今回新たな取組として精神障害者についての理解を啓発するため「こころに寄り添う地域づくり講座」を実施しましたので、次ページからご紹介します。

- 法人名／社会福祉法人 緑仙会
- 本部所在地／宮城県仙台市泉区七北田字大沢鳥谷ヶ沢8-11（パルいずみ内）
- 連絡先／TEL：022-377-3761
- ホームページ／<https://www.ryokusenkai.org/>
ホームページはこちらからアクセスできます▶



緑仙会 × 仙台市社会福祉協議会泉区事務所

コラボ研修事業を実施しました!

こころに寄り添う地域づくり講座 ～精神障害を抱える方の理解に向けて～

令和7年7月に仙台市社会福祉協議会泉区事務所とともに地区社会福祉協議会関係者や民生委員児童委員を主な対象とした「こころに寄り添う地域づくり講座」を開催しました。この取組は緑仙会の「精神障害者への差別や偏見をなくせるような取組がしたい」との思いをきっかけに始まっています。当日のプログラムを考える際は、「差別や偏見について考えていくにあたり、当事者の経験やどんな思いを持って地域で暮らしているかを知ってもらい、精神障害についての理解を深めてもらうことからスタートすることが大切なのではないか。」と考え、以下のプログラム構成で実施しました。



1 精神障害者に関する基礎知識 (社会福祉法人緑仙会)

精神疾患の種類や症状等の概要について説明がありました。精神疾患は、体質や物事の捉え方の特徴、人間関係のトラブルや環境の変化など、様々な要因が複雑に関わっているとされています。嶺岸事務長は「他の疾患と同様、精神疾患もその人の人格を表すものではない」とお話しされました。

2 当事者の体験談 (仙台スピーカーズビューロー)

仙台スピーカーズビューローは、精神障害者が地域で安心して生活できるよう、自分達の体験や思いを直接話したり、交流することにより相互理解を深め、精神疾患に対する偏見の解消に努めることを目的に活動している団体です。スピーカーの川村有紀さん、さかいゆうたさんがお話しをされました。



川村有紀さん

些細なことですが、町内会長さんから言われた「これお願い」「ありがとう」が嬉しかったです。



さかいゆうたさん

地域の方との何気ない雑談が自分の支えになりました。

仙台スピーカーズ
ビューローに
関するお問い合わせはこちら

メンタルヘルス
プロモーションセンター
〒981-8523 仙台市青葉区国見1-19-1
TEL:022-728-6630
E-mail:health@tfu.ac.jp

3 グループワーク「当事者の話を聞いて感じたこと」



話し合われた感想

- 精神障害は特別なことではないと思った。
- 私たちにできることは何だろう?
- もっと一緒に話してみたいと思った。
- 分かれば安心。知らない不安…。
- あいさつなど、話しかけてもいいと思うようになった。

この研修では、これまで精神障害者との接点がなかった方や、十分に理解できていなかった方にも、正しく理解していただく機会となりました。精神障害は特別なことではないことを理解してもらい、同じ地域の一員としてあいさつや声かけが交わされることで、自然に関わりあえる地域づくりにつながることが期待されます。

仙台市社会福祉協議会泉区事務所CSW (コミュニティソーシャルワーカー) よりコメント

当事者から自身が苦労された体験や支えになった事を聞くことで、精神障害者との関わり方を考える貴重な機会になったと思います。今後は様々な地域団体の研修会に出前講座を実施し、精神障害について地域の皆さんが「知る」「考える」ことができる場を増やしていきたいと考えています。

仙台市社会福祉協議会は社会福祉法人の公益的取組を支援します!



山の寺地区社会福祉協議会・3老人会共催ふれあいサロンにて

地域版 「ここに寄り添う地域づくり講座」を開催しました！

7月に開催された講座（前頁）を受講した山の寺地区社会福祉協議会会長より「この研修を私たちの地域でも実施してほしい」との要望を受け、ふれあいサロンにて講座を開催しました。山の寺地区に暮らす地域住民約30名が参加し、精神障害についての理解を深める機会となりました。当日は質疑応答の時間も設けられ、「地域住民に期待することは何か」「精神障害者の相談窓口はどこか」など、多くの方から質問があげられました。参加者からは、「精神障害がある方の話を直接聞く機会はなかったので勉強になった」「今後は先入観を持たずに接するようにしたい」「障害についてよく知ることが大切だと思った」などの感想が聞かれました。



社会福祉法人緑仙会の職員さんに聞きました！

Q. 今回の取組の経緯を教えてください。

A. 精神障害者に対する差別や偏見をなくすために、まずは当事者の経験や、どんな思いを持ちながら地域で暮らしているかを地域住民に知ってもらうために当事者の声を届ける機会が必要と考えました。そこで、地域での展開を考えるにあたり、地域における公益的取組の推進に取り組まれている仙台市社会福祉協議会に相談させていただき、一緒に考えてくださり、このような形でコラボレーションして実施することができました。また、仙台スピーカーズビューローの皆さんも、これまでは福祉を学ぶ学生や福祉職に就く方々を主な対象にしていたましたが、地域住民にも障害理解を広めたいという同じ思いがあったことから、今回協力していただくことができました。

Q. どのような体制で取組を進めましたか。

A. 緑仙会本部職員と公益的取組アドバイザーとともに進めました。公益的取組アドバイザーは当法人のOBが務めており、公益的取組について第三者の目線から助言をもらっています。また、講座を開催した際には各拠点からも職員に見学に来てもらい、いずれは講座に対応できる職員を増やすように育成したいと考えています。公益的取組については、法人の「中期経営計画」に、どのような活動を行うのが明確になっているので、職員には法人全体での取り組みが必要ということが意識付けされていると思います。

Q. 実際にやってみてどうでしたか。

A. 最初はこの講座を受け入れてもらえるのかどうかの不安

はありました。ですが、やってみて「今までとイメージが変わりました」「精神障害がある方との関わり方が分かってよかったです」との感想をもらうことができました。アンケート結果を見ても、8割以上の方が精神疾患や精神障害に対するイメージが変わったと回答しているため、実施することができてよかったと改めて感じています。

Q. 今後の地域との関わりについて教えてください。

A. 今回の講座は精神障害の理解を深めるきっかけとして開催しましたが、障害理解は一度の学びで終わるものではなく、長期的に取り組むことが重要と考えています。そのため、今後も継続的に地域と関わりを持ち、地域全体に理解を広げていきたいと考えています。また、地域における公益的取組については、「地域のために法人として+αで何かやる」という意識ではなく、「私たち法人も同じ地域の一員として一緒に地域づくりを行う」ということを心がけていますので、今後も地域の方々と協力して、ともに活動していきたいと思っています。



公益的取組検討メンバーでの話し合いの様子。
左から事務長 嶺岸弘さん、公益的取組アドバイザー 齋藤邦彦さん、主任 伊藤敏江さん

取材協力

社会福祉法人緑仙会 事務長 嶺岸 弘 氏
主 任 伊藤敏江 氏

